

多文化フィールドスタディー(3・4 年次) — 中国での調査を終えて —

【共通調査】

中国社会におけるスマートフォン決済の現状

<研修期間>

2018年8月7日～8月29日

<研修場所>

中国、北京

<調査方法>

北京師範大学内および、その周辺でのアンケート調査

<新たな気付き～学生からの体験談より>

「中国の大学生は財布を持たない」「本当にそうなのか？」そうした素朴な疑問を確かめたく調査を行いました。実際、中国では若者だけでなく多くの世代がスマホ決済を駆使し、キャッシュで初めて可能となる各種のサービスを楽しむなど、中国は既にデジタル経済の新たなステージに入っていることを実感出来ました。

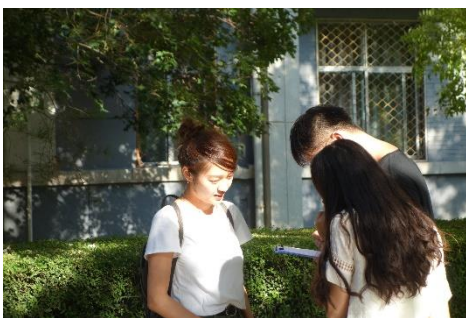


【個別調査】

学生の報告書から(多文化コミュニケーション学科3年生)

「中国人の朝食に対する意識」

池田 遙(Ikeda Haruka)



朝食に対する意識としては、皆さん毎日朝食を取るとのことでした。私たち日本人大学生に置き換えて考えると、当たり前だけれどなかなか難しいことではないでしょうか。また、屋台などの外食で朝食を済ませるといった意見もあり印象的でした。

「中国人のタトゥー事情」

佐藤 麻衣奈(Sato Maina)

タトゥーについて、どのような意見があるのか調査してきました。「自分はタトゥーを入れている、入れてみたい」と答えた人が20,30代に多かったが、「仕事の関係でできないまたは自分の子供には進めない」という意見がありました。10や40代以降の人たちからは否定的な意見が多かったです。世代によって価値観の違いがありました。積極的にアンケートに答えてくださる方が多く、スムーズに進めることができました。



「中国人大学生の趣味について」

竹嶋 明日香(Takeshima Asuka)



大学内の学生を中心に調査を行いました。調査から分かったことは、中国人大学生は趣味に時間をかけるより、勉強に多くの時間をかけていることです。アンケート調査にあたって、自分の言語力がとても不安でしたが、こちらから元気に笑顔で接したことで心地のよいコミュニケーションを行えました。

「中国の奢り文化とAA制」

田部 優美(Tabe Yumi)

面子を重視する中国人にとって「奢る」行為はこれまで不可欠であるとされ、現在でもその習慣は残っているのか調査しました。学生や若い方の多くはAA制(割り勘)との回答でした。スマホ決済では個人間の送金も可能です。そうした機能の普及も中国でAA制を浸透させている理由ではないでしょうか。



「中国人のSNSとの関わり方について」

遠山 晴花(Toyama Haruka)



アンケートの結果、中国でも日常生活の中でSNS利用は欠かせないと回答したのは大学生を中心とする若い年代に多く、中には直接会話をするよりも、微信などを利用したSNS上での会話やゲームなどのバーチャルな関係を通じて友人と繋がる人もいることもわかった。

「中国人女性の化粧に対する意識」

細井 瞭(Hosoi Ryo)

私と同年くらいの女性2人組が、化粧をする頻度についての質問に対し、「彼氏もないのに化粧なんてしない」と笑い合っていたのが印象的だった。もちろん人によるが、化粧は特別な日にするものという考えを持つ中国人は少なくなかった。しかし、何事においても文化が違えば常識も考え方も様々で、その前提のもとに相手を受け入れる姿勢を忘れてはいけなく改めて感じる事ができた。



主に北京師範大学内で調査をし、多くの学生に回答してもらったが、皆とても親切で声をかけたほぼ全員がアンケートに協力してくれた。アンケートの中で「大学卒業後にすぐに就職するか」の質問に対して、「すぐに就職せず大学院に進学する」という回答が多く、日本の学生とは異なる点があることが分かった。暑い中でのアンケートは大変だったが、現地の方々が優しく接してくれたお陰で頑張れた。

